

神さま、ありがとう！

＜今月の聖句＞「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」  
(ローマの信徒への手紙 12章 15節)

先月、新年最初の誕生会で、世界のはじまりのお話をしました。  
聖書の創世記にある、神さまが7日間で世界をお造りになった物語です。

「みんな目を閉じてごらん。何が見える」

2～6歳の子どもたちは素直に目を閉じて、「真っ暗、何も見えない」

「そのとき神さまの声が聞こえたんだよ。光あれ！ さあ目を開けて」

「わあ、明るい！」「これが世界の1日目に起こったことだよ」

私たちの日々の生活でどんな闇が訪れても、神さまは必ず光を与えられる。  
その願いと祈りをこめ話し、続いて2日目に大空と大海を、3日目に大地を  
神さまが造られ、たくさんの樹木、果樹を生やされたことを伝えて  
「どんな木だろう？」と尋ねると、「夏みかん、梅、さくら、ざくろ…」。  
子どもたちは想像を巡らし、いつも身近な園庭にある植物を答えてくれた。

4日目お日様と月星の後、5日目に海と空に満ちる生き物たちを造られたとき  
こちらが何も尋ねなくても、子どもたちの方から

「お魚、いるか、くじら、くらげ…、からす、すすめ、はと、わし…」。

そして、6日目、いよいよ大地を動く生き物たちの創造のときには

「ライオン、きりん、ぞう、かまきり、くも、だんごむし…」。

ここまでくるともはや子どもたちの独壇場。次から次と言葉があふれでる。

その中にひとり、「に・ん・げ・ん！」と叫んだ子がいた。

「そうなんだ、神さまは最後に私たち人間を造られたんだ。なぜだろう？」

この問いはなかなか難しい。私たち大人も簡単には答えることができない。

ただ、聖書は、7日目に神さまは創造の業を休まれたと、伝えている。

きっと、美しく造られたこの世界を人間と一緒に喜び祝うためではないか。

今年最初の誕生会、子どもたちと一緒に、世界と私たち一人ひとりを造られた  
神さまに心から喜びと感謝を伝えられた、そう感じられた一日でした。

(つくし保育園園長 つだかずお)

※毎週日曜日あさ 10時 30分からの礼拝(醍醐教会)にも

ぜひお越しください。子どもたち向けのお話もしています。